

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】令和7年3月12日(2025.3.12)

【公開番号】特開2022-167846(P2022-167846A)

【公開日】令和4年11月4日(2022.11.4)

【年通号数】公開公報(特許)2022-203

【出願番号】特願2022-70096(P2022-70096)

【国際特許分類】

C 1 1 D 1/72(2006.01)

C 1 1 D 1/52(2006.01)

C 1 1 D 1/68(2006.01)

C 1 1 D 17/04(2006.01)

C 1 1 D 1/02(2006.01)

【F I】

C 1 1 D 1/72

C 1 1 D 1/52

C 1 1 D 1/68

C 1 1 D 17/04

C 1 1 D 1/02

【手続補正書】

【提出日】令和7年3月4日(2025.3.4)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

下記(a)成分と下記(b)成分を含有する硬質物品用洗浄剤組成物であって、組成物全体の親水親油指数が9以上14.2以下である、硬質物品用洗浄剤組成物。

(a)成分：炭素数8以上18以下のアルキル基又はアルケニル基を有し、オキシアルキレン基の平均付加モル数が1以上5以下である、ポリオキシアルキレンアルキル又はアルケニルアミン

(b)成分：非イオン界面活性剤(但し、(a)成分及びアミド型非イオン界面活性剤を除く)

【請求項2】

(a)成分の含有量と(b)成分の含有量との質量比である(a)/(b)が0.01以上30以下である、請求項1に記載の硬質物品洗浄剤組成物。

【請求項3】

20℃のpHが5以上11以下である、請求項1又は2に記載の硬質物品用洗浄剤組成物。

【請求項4】

任意に下記(c)成分を含有する、請求項1又は2に記載の硬質物品用洗浄剤組成物。

(c)成分：陰イオン界面活性剤

【請求項5】

(c)成分の含有量が、組成物中の界面活性剤総量に対して50質量%以下である、請求項4に記載の硬質物品用洗浄剤組成物。

【請求項6】

任意に下記（d）成分を含有し、（d）成分の含有量が、組成物中の界面活性剤総量に対して10質量%未満である、請求項1又は2に記載の硬質物品用洗浄剤組成物。

（d）成分：アミド型非イオン界面活性剤

【請求項7】

任意に下記（e）成分を含有し、（e）成分の含有量が、組成物中の界面活性剤総量に対して50質量%未満である、請求項1又は2に記載の硬質物品用洗浄剤組成物。

（e）成分：炭素数9以下の炭化水素基を有する水への溶解度が25℃で5g／100g以上の親水性溶剤

【請求項8】

（b）成分が、（b1）ポリオキシアルキレンアルキルエーテル、（b2）アルキル（ポリ）グリコシド、（b3）ポリオキシアルキレン脂肪酸エステル、（b4）ポリグリセリン脂肪酸エステル、及び（b5）（ポリ）オキシアルキレンソルビタン脂肪酸エステルから選ばれる一種以上の非イオン界面活性剤である、請求項1又は2に記載の硬質物品用洗浄剤組成物。

10

【請求項9】

（b）成分が、アルコキシレート型非イオン界面活性剤及びアルキルグリコシド型界面活性剤から選ばれる一種以上の、HLB9以上17.4以下の非イオン界面活性剤である、請求項1又は2に記載の硬質物品用洗浄剤組成物。

【請求項10】

請求項1又は2に記載の硬質物品用洗浄剤組成物を汚れの付着している硬質物品に接触させる、硬質物品の洗浄方法。

20

【請求項11】

前記硬質物品用洗浄剤組成物を起泡させて硬質物品に接触させる、請求項10に記載の硬質物品の洗浄方法。

【請求項12】

前記硬質物品用洗浄剤組成物を、スポンジで起泡させて又は泡形成機構を備えたスプレーヤーで起泡させて、硬質物品に接触させる、請求項11に記載の硬質物品の洗浄方法。

【請求項13】

硬質物品が食器である、請求項10に記載の硬質物品の洗浄方法。

【請求項14】

汚れが油汚れである、請求項10に記載の硬質物品の洗浄方法。

30

40

50